

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年
10月12日
第167号



ヒガンバナ（ヒガンバナ科）

園内のあちこちで咲いています。とくに本園で栽培しているわけではなく、毎年この時期に赤色または白色の花を咲かせています。中国大陸からの帰化植物、多年草です。全草にアルカロイドであるリコリンを含み、有毒植物として知られ、アフリカ南部ではリコリンの含量が特に多い鱗茎をすり潰したものを矢毒として狩猟に使っていたそうです。リコリンの名の由来は、ヒガンバナ属を指す英名のリコリスからですが、薬用植物としてリコリスというと、英語のスペルが異なるマメ科カンゾウ属植物のことを指しますので、ややこしいです。

鱗茎が石蒜（セキサン）という生薬となり、民間で、水腫、関節痛、打撲痛の患部に、ヒマシ油と共にすりつぶしたものを塗布して利用します。催吐薬として食中毒に対して煎じ液を内服する用法がありますが、内服は危険なので止めてください。

フヨウ（アオイ科）

カフェテリアからガラス越しに本園を見ると、ピンク色の花が咲いているのが見られます。中国原産、落葉広葉樹の低木で、庭木や公園樹としてよく植えられています。本園の株は花の咲き始めからピンク色ですが、花の咲き始めは白色で時間がたつとピンク色に変化する変種があり、酔払って顔が赤くなることを例えたスイフヨウ（酔芙蓉）という名が付けられています。フヨウの中国語名は「木芙蓉」で、ハスの中国語での別名である「水芙蓉」と区別されていますが、日本語での発音がそれと同じになるので注意しましょう。

花が芙蓉花（フヨウカ）、葉が芙蓉葉（フヨウヨウ）という名の生薬となり、中国での民間で、芙蓉花は月経過多に対してそのまま粉末にしたものを内服、芙蓉葉は各種腫痛に対して粉末をハチミツで溶いたものを塗布して利用するそうです。